



## 銀閣はどうして銀ぱくをはった形で完成しなかったの

### 銀ぱくをはったあとながない

むらまちじだい だいしやうぐんあしかがよしまさ きやうと ひがしやま ひがしやまさんそう つく はじ ねん  
室町時代の8代将軍足利義政が、京都の東山に東山山荘を造り始めたのは、1482年  
のことで、次の年、義政はここに移り住みました。そのころの文化を東山文化といいます。  
ひがしやまさんそう いちぶ ぎんかく とうじ かのんでん ねん かんせい よしまさ  
東山山荘の一部である銀閣は、当時、観音殿といわれ、1489年に完成しました。義政  
はその次の年に55才でなくなりましたが、義政の遺言でこの山荘は禅寺に改められ、慈  
しょうじ  
照寺とよばれるようになりました。

ぎんかく だいしやうぐんあしかがよしみつ きんかく ぎん  
この銀閣は、3代将軍足利義満の金閣にならって、銀ぱくをはったといわれていました  
が、ちやうさ けつが じじつ みあ  
調査の結果、そのような事実は、まったく見当たりませんでした。

### じつは、銀ぱくをはるようなよゆうがなかった

てら つく まえ おうにん らん なが ひとびと せいかつ  
この寺が造られる前は、応仁の乱という長いいさぎがありました。そのため、人々の生活  
はとても苦しく、義政がこの東山山荘の建設をするための費用を、農民や諸大名に求めて  
も、ひとびと めいれい おう  
人々は、なかなかその命令に応じなくなっていました。このことから、とても銀ぱく  
(ぎんをうすくのばしたもの)をはるようなよゆうは、なかったおもわれます。

せんごくじだい まつき きんかく じしやうじ おお たてもの や  
戦国時代の末期になると、銀閣をのぞき、慈照寺の多くの建物がいさぎのために焼けてし  
まいました。のこ ぎんかく え どじだい しゅうり  
残った銀閣はあれはてましたが、江戸時代になってから修理されたのです。

ぎんかく なまえ え どじだい めいしよあんないき つか ひとびと  
なお、銀閣という名前は、江戸時代に名所案内記で使われてから、人々にいわれるようにな  
ったものです。(監修・田代 脩)

